

タンパク尿を放置して透析に…
尿毒症で苦しみ、就職で苦しみ、
でも透析患者だからこそその
ビジネスを展開しています。



池間真吾さん

一病

松村満美子のインタビュー

息災

日本全国で、希望する時間に、自分の条件に
あった透析を受けられるようにしたかった！

サラリーマン時代に指摘されたタンパク尿を放置したため透析になった池間真吾さん。一時は仕事もなくなり絶望的になりましたが、透析患者の目線で世の中を見てみたら、さまざまなアイデアが浮かんできました。そこで、透析患者のQOLを高めるためのビジネスを次々と展開してきました。先月、朝日新聞の「患者を生きる」のコーナーで紹介されましたので、ご覧になった方もいるかもしれません。今回は、仕事で東京にこられた池間さんに、どのように道を切り開いてきたか、話を伺いました。

インタビュー 松村 満美子

透析患者の目線で考え、 次々とビジネス展開

松村 新しいお仕事が新聞で紹介されたそうですが、どのようなものですか？

池間 僕は沖縄の宮古島に住んで透析を受けてますが、離島では台風の時など透析の医療材料が足りなくなったりするんです。それで島に倉庫を作り、透析患者自身が配達する仕組みを作りたいと思いました。

それは役に立ちますね。もう稼働しているのですか？

昨年10月に「腎友メディ

カル」という会社を作り、医療器機の販売の免許をとりました。実際に仕事を始めるのはこの4月からです。そのアイデアは他の離島でも使えそうですね。

日本は海に囲まれ島が多いので、いろいろなところで役にたつと思います。宮古島の次は石垣島に作ろうと考えています。

ほかにも透析患者を支える仕事をしていると伺いましたが？

はい、旅行先で透析ができる病院のデータベースを作り、情報を提供しています。どうしてデータベースを作る

うと思ったんですか？

以前、宮古島の観光協会に勤めていて、観光客を誘致する仕事を担当していたんです。全国各地にでかけ島の魅力を伝えるのですが、出張先で透析をしなければならない。だけど、どの地域のどの病院が旅行者の透析を受け入れてくれるのか、まったく分からなかったんです。

透析は決まった施設で受けるものと思われていますものね。

病院のホームページを見ても、何曜日の何時なら透析をしてもらえるのかの情報が非

常に少ない。

どうやって調べたのですか？

日本透析医学会施設会員の名簿を見て片っ端から電話をしました。当時、5時間透析をしていたのですが、5時間を引き受けてくれる病院がとて少ないんです。

長時間透析はまだ難しいかもしれませんね。

昼休みに電話をするんですけど、14カ所に電話して断られ続けです。毎月のように出張があり、行く先は違うので、毎回苦労しました。それで各地域の透析病院の情報を集めようと思いついたんです。

日本中、全部集めたんですか？

はい、透析施設は全国に4千以上あるんです。それを1カ所ずつ電話して、調べました。**仕事をしながら、それは大変でしたね。**

これができれば全国32万人の透析患者のためになると思い、観光協会は退職して、自分で会社を作りました。

それは、思い切りましたね。

日本全国どこでも、自分が希望する時間に透析が受けられるようにしたかった。長時間とか自分の条件にあう透析施設がわかる、ちゃんとした

データベースがないと、みんなが困ると思ったので、同じ透析患者さんを10人雇ってコールセンターを作り、2年間かけて完成させました。

半年間、透析を拒否尿毒症の怖さを体験

どうして腎臓が悪くなったんですか？

分からないんですが、ただ太ってて高血圧だったんです。

分かったのはいくつの時？

30才です。サラリーマン時代に会社の健康診断で尿タンパクを指摘されて...

ほっておいた？

はい、当時は放送局で報道の記者をしてたんですが、夜討ち朝駆けの毎日で、再検査なんて考えもしませんでした。

それでは緊急透析ですか？

いえ、実は脱サラしたんです。旅行が好きで、学生時代から世界各地を旅していたので、旅に関係がある仕事をしたいと思い、沖縄の那覇に移住して民宿とレストランを始めました。そうしたら健康診断も受けなくなって。

その間に、病気はどんどん進行していたんですね。

ええ、顔はむくんでパンパ



ン、夜中に足がつる、だけど、それが腎臓のせいだとは思わなかったです。

どうして分かったんですか？

たまたま血液検査を受けたら、クレアチニンが8を超えていて、すぐに透析といわれました。

それでシャントを作ったんですね。

いえ、透析を始めると週3回通院しなくてはならないし、それが一生続くわけですから、仕事も旅行も、何もできなくなってしまうと、半年間拒否してました。

体は辛かったですよね。

もう最悪です。毎晩、両足太ももから下全部がつるので、両足でぴよんぴよん跳びはねて痛みを耐えていました。「このままじゃ死にますよ」といわれても、「死んだ方がましだ」と思うくらい体調が悪かったです。クレアチンは20を超えて、どうしようもなくなって透析を始めました。

楽になりましたか？

それが透析した瞬間に具合が悪くなりました。というのは半年の間に血管がぼろぼろになっていたんですね。透析のときに血が固まらないようにヘパリンを打ちますが、したらぼろぼろになっていた十二指腸とか内臓の壁から出血して、緊急入院しました。

池間 真吾 さん

1970年生まれ、45歳。30才の時に会社の検診でタンパク尿を指摘されたが放置。脱サラして沖縄に移住し民宿とレストランを営んでいたが、腎不全が進行し38才で透析導入。体調悪化のため全てを手放し、奥様の実家がある宮古島で就職。旅行透析の病院探しの困難に着目し、透析施設のデータベース構築に着手。2012年(株)旅行透析、2015年(株)腎友メディカルを設立。透析患者の目線で新たなビジネスを展開中。

どのくらい入院したのですか？

4ヶ月です。胃カメラを飲んで19回手術しました。血便が出て、ふらふらで歩けないし、食べても吐いちゃうし、本当に辛かったです。

それは大変でしたね。腎臓が働かないと血管がそんなに痛むんですね。その間、仕事はどうしてらしたの？

とても無理で、民宿もレストランも人手に渡すことになりました。それでその時につきあっていた彼女と結婚して、彼女の実家がある宮古島に移住したいと思ったんです。**透析をしながら、仕事もなくなってしまったんですからね。それでどうしたんですか？**

まず仕事をしないと生活していけませんから、ハローワークに行って探しましたが、全滅です。38才で、記者や経営者としての経験があってもダメで、現実の厳しさを実感しましたね。

皆さん、苦勞してますよね。

そしたら知り合いから宮古島の観光関係の仕事を紹介してもらうことができ、宮古島の観光協会に就職で

きたんです。本当に運が良かったです。

それで結婚のほうは？

許してはもらえたんですけど、透析をしながら、普通に働けるし、子供もできるし、ちゃんとできるよということを見せるために一生懸命に頑張りました。

前向きでいれば、道は開ける

会社は順調ですか？

はい、おかげさまで。最近では透析つきのホテルパックみたいな商品がありますが、その分野で各旅行会社さんと提携させてもらっています。個人旅行の方には今までは無料で透析患者社員が対応するコールセンターを利用してもらっていたのですが、これからは少しはいただくようにしたいと思っています。

そうですね、自分で調べることが思えば、とても便利ですもの。

日本全国網羅した旅行透析の受入病院データが当社にしかないため、海外からも日本で透析がしたいという問合せがたくさんきます。特に台湾



から日本へは毎月十数人が当社の紹介で旅行透析に訪れています。去年は中国、韓国、台湾、シンガポール、マレーシア、日本の6カ国で旅行透析会議というのを開いたんですよ。

そんなに需要があるのですか？

ええ、あと東京オリンピックの時に、パラリンピックの選手には透析している人がいるし、海外から訪れる観客にも透析の人がいるだろうからと、いろいろなところから協力を依頼されています。

それはすごいですね。ご自分が透析を始めたことで、いろいろなビジネスプランが湧いてくるんですね。

僕も、最初は透析になったらどこにも行けない、もう宮古島につながれてしまったんだと思いましたよ。でもそんなことはない、透析のことで引きこもるんじゃなくて、もっとプラス思考でいると、道が開けていくんですね。

インタビューを終えて・・・・・・・・



とにかく前向きなのに驚きました。透析を始めた頃は短時間透析が良いと思っていたのですが、手当たり次第本を読んで勉強し、今では7時間透析をなさっているとか。しっかり透析しているので、国内外の出張が多い日々でも、元気で過ごすことができるんですね。会社のWebサイトでは出張先での透析の様子を体験レポートにして掲載しているそうですよ。宮古島では二人のお子さんに恵まれ、家族との時間を大切にしているとか。家族のため、透析患者さんのため、体調管理をしっかり、ばりばり働いて、長生きしてくださいね。